

トビウオ通信 (R8 第2号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《令和7年漁期前半(8月～12月)の底びき網漁業の動向》

底びき網漁業の令和7年漁期前半(令和7年8月～12月)の動向を取りまとめました。島根県の基幹漁業の一つである本漁業は、カレイ類やアカムツなど海底付近に生息する様々な魚介類を漁獲対象とします。1隻の小型漁船で操業する「小型機船底びき網漁業(かけまわし)」と2隻の大型漁船で一つの網を曳く「沖合底びき網漁業(2そうびき)」の動向について紹介します。

小型機船底びき網漁業(かけまわし)

1 隻当り漁獲量は平年を下回る

島根県の小型機船底びき網漁業(かけまわし) 31隻の令和7年漁期前半(令和7年9月1日～12月31日)の総漁獲量は1,162トン、総水揚金額は7億601万円でした。1隻当り漁獲量(以下、CPUE)は37トンで平年を15%下回りましたが、水揚金額は2,277万円です(平年値:44トン、2,251万円)。

ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

主要魚種であるソウハチのCPUEは4.2トンで、前年を上回りましたが、平年を下回りました(前年の1.1倍、平年の7割)。ムシガレイのCPUEは1.3トンで、前年を上回りましたが、平年を下回り、低調な水揚げが続いています(前年の1.2倍、平年の9割)。メイトガレイのCPUEは0.1トンで、前年の1.2倍、平年の2割の水揚げでした。

ケンサキイカは低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカのCPUEは0.4トンで、前年を上回りましたが、平年を下回り、低調な水揚げが続いています(前年の7.6倍、平年の6割)。ヤリイカのCPUEは7.1トンで、前年・平年を上回る好調な水揚げでした(前年の1.5倍、平年の2.4倍)。

アカムツは平年並み、ニギス、アンコウ類、キダイは平年を下回る

アカムツのCPUEは2.2トンで、前年を上回りましたが、平年並みの水揚げでした(前年の1.3倍、平年の1.0倍)。ニギスのCPUEは3.1トンで、前年の5割、平年の8割と低調な水揚げでした。アンコウ類のCPUEは2.8トンで、前年の7割、平年の5割の水揚げとなり、3期続けての減少となりました。キダイのCPUEは2.1トンで、前年の1.1倍、平年の7割でした。

その他、アナゴ類のCPUEは3.9トンで、前年・平年を上回りました(前年の1.5倍、平年の1.1倍)。マダラのCPUEは0.7トンで、前年・平年を下回る水揚げでした(前年の7割、平年の4割)。

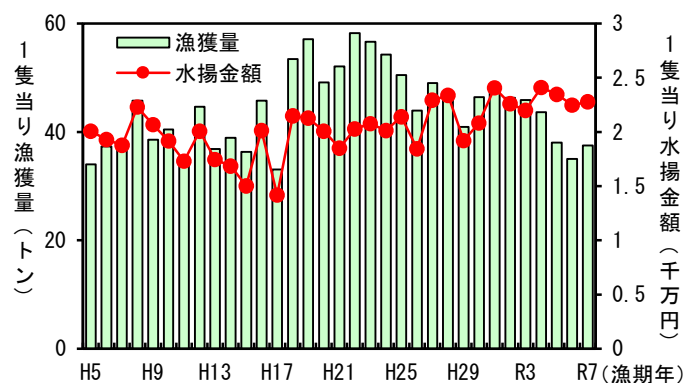


図1 小型機船底びき網漁業における1隻当り漁獲量と水揚金額の動向(各漁期年の9月～12月)

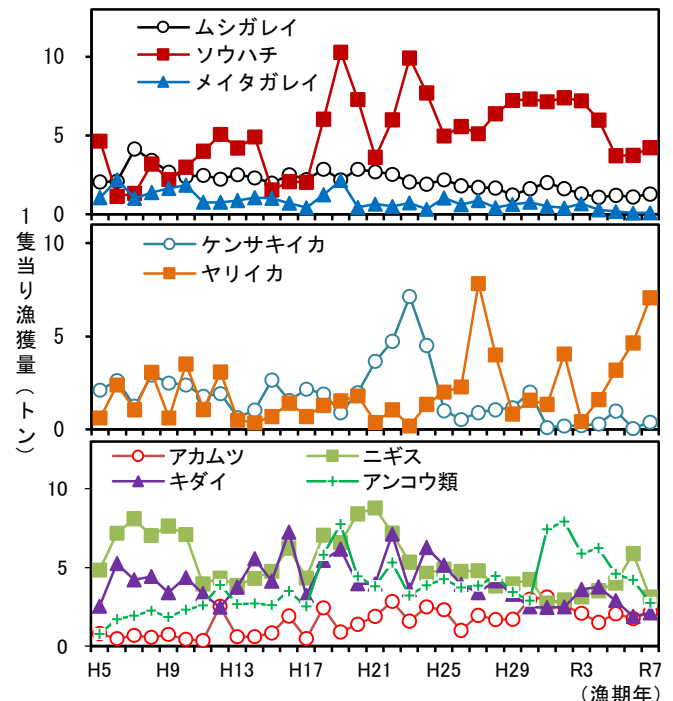


図2 小型機船底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向(各漁期年の9月～12月)

＜文中の語句説明＞

- ☞ 平年は、過去10年[平成27年漁期～令和6年漁期の漁期前半(8月～12月)]の平均です。
- ☞ 前年・平年との比較は、当年との比率が110%より高い場合は「上回る」、90～110%は「並み」、90%より低い場合は「下回る」としています。

沖合底びき網漁業（2 そうびき）

1 統当り漁獲量は平年並み

浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業（2 そうびき）3 統（6 隻）の令和 7 年漁期前半（令和 7 年 8 月 16 日～12 月 31 日）の総漁獲量は 904 トン、総水揚金額は 6 億 9,276 万円でした。1 統当り漁獲量（以下、CPUE）は 301 トンで平年並み、水揚金額は 2 億 3,092 万円で平年を 26% 上回りました（平年値：305 トン、1 億 8,336 万円）。

ソウハチ、ムシガレイとも平年を下回る

主要魚種であるソウハチの CPUE は 16.6 トンで前年並み、平年を下回りました（前年の 1.0 倍、平年の 9 割）。ムシガレイの CPUE は 18.7 トンで、減少傾向が続いていた前年から上向きに転じましたが、平年を下回り、依然として低調な漁獲が続いています（前年の 2.0 倍、平年の 7 割）。ヤナギムシガレイの CPUE は 8.2 トンで、前年・平年並みでした（前年の 1.1 倍、平年の 1.0 倍）。

ケンサキイカは低調、ヤリイカは好調

ケンサキイカの CPUE は 6.8 トンで、前年を上回りましたが、平年を下回りました（前年の 1.4 倍、平年の 6 割）。一方、ヤリイカの CPUE は 26.5 トンで、前年・平年を上回り、平成 6 年漁期以降で過去最高を記録した令和 2 年漁期（26.6 トン）に並ぶ、好調な水揚げとなりました（前年の 2.5 倍、平年の 3.5 倍）。

アカムツ、アンコウ類は好調、キダイは平年を下回る

アカムツの CPUE は令和 4 年漁期以降減少傾向でしたが、今期は 37.5 トンで前年・平年を上回りました（前年の 1.9 倍、平年の 1.2 倍）。アンコウ類の CPUE は 30.2 トンで前年・平年を上回り、減少傾向が続いていた前年から上向きに転じました（前年の 2.3 倍、平年の 1.6 倍）。一方、キダイの CPUE は 29.1 トンで、前年・平年を下回りました（前年・平年の 7 割）。ニギスの CPUE は 1.8 トンで平年の 7 割、アナゴ類の CPUE は 27.4 トンで平年並みの水揚げでした。

その他、マダイは令和 4 年漁期以降安定的に漁獲されていましたが、今期の CPUE は 12.5 トンで前年・平年を下回りました（前年の 6 割、平年の 9 割）。また、マダラの CPUE は 26.5 トンで前年の 1.4 倍、平年の 2.4 倍と前年に引き続き好調な水揚げでした。

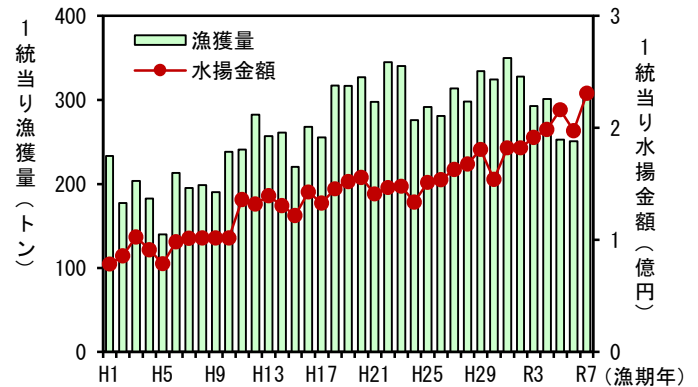


図 3 浜田漁港を基地とする沖合底びき網漁業における 1 統当り漁獲量と水揚金額の動向（各漁期年の 8 月～12 月）

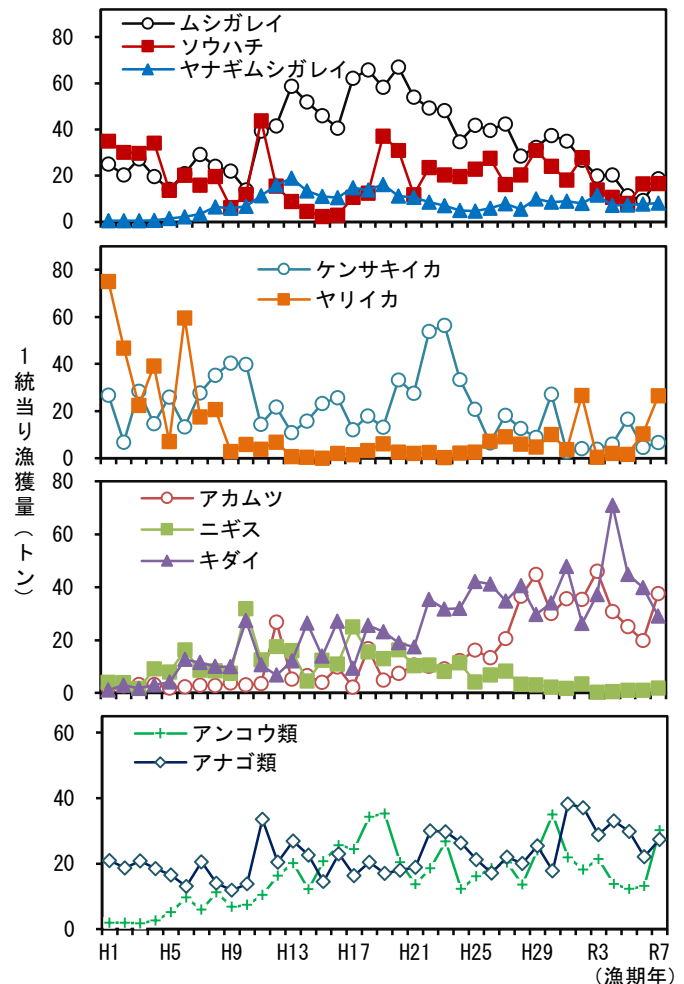


図 4 浜田漁港を根拠地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の漁獲動向（各漁期年の 8 月～12 月）